



長倉集落調査経過報告

2011年10月28日

1. 資源マップ

2. 建物調査

3. 水系調査

4. 農地調査

5. 石垣調査

6. 祭礼調査

7. 景観調査

2011高山プロジェクトチーム
東京大学都市デザイン研究室
横浜国立大学都市計画研究室

1.資源マップ 長倉地区

水路



棚田



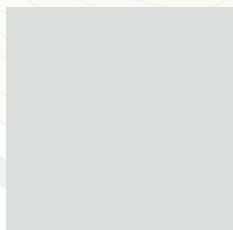
山椒



家庭菜園



杉並木



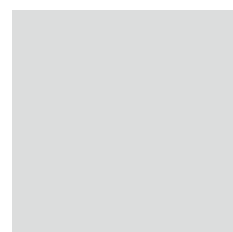
高原川



凡例

- 山椒
- 畑・菜園
とまと なす ねぎ
とうもろこし かぼちゃ
- 水田
- 果樹園
リンゴ ブルーベリー
ブドウ
- そば
- 未利用地
- 水路
- 桜谷
- 水舟
- 池
- 板蔵
- 小屋
- 庭
- 石垣

桂峯寺



石垣



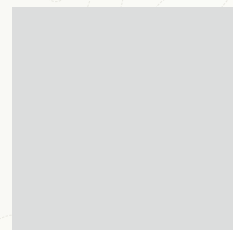
滝



桜谷



板倉



水舟



1.資源マップ 細越地区

高鳥屋山



庭



谷



開けた田

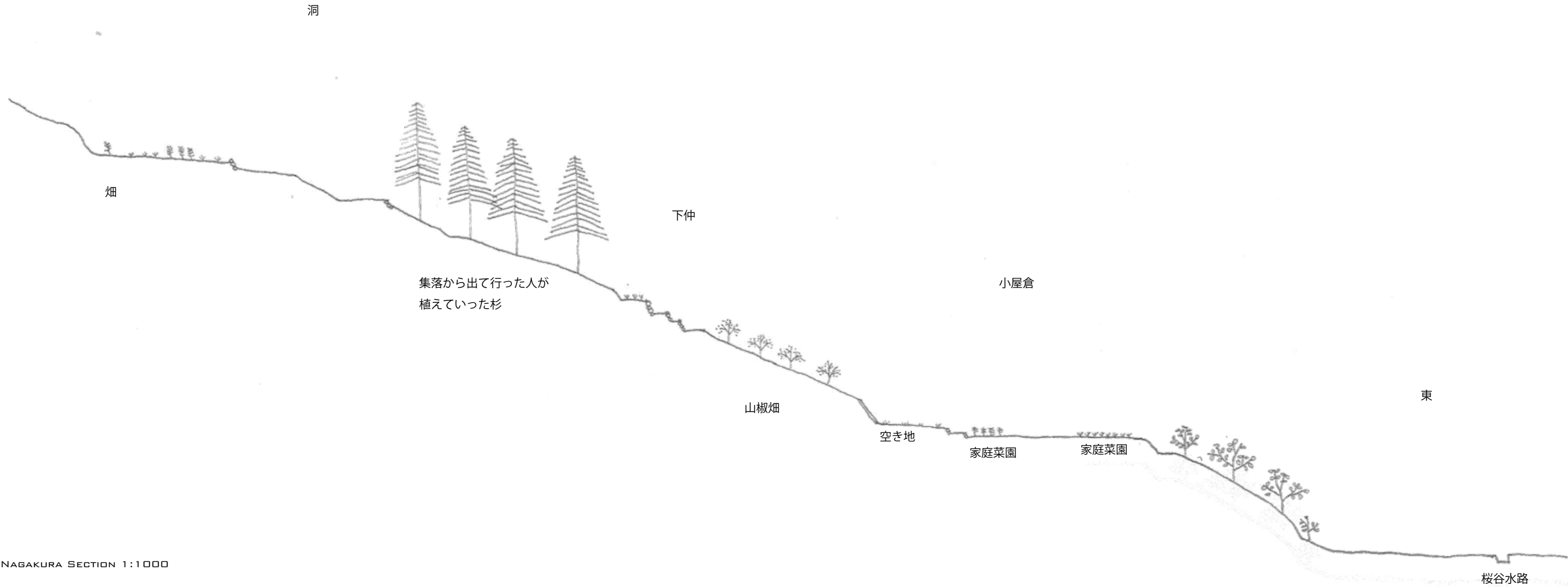


直売所

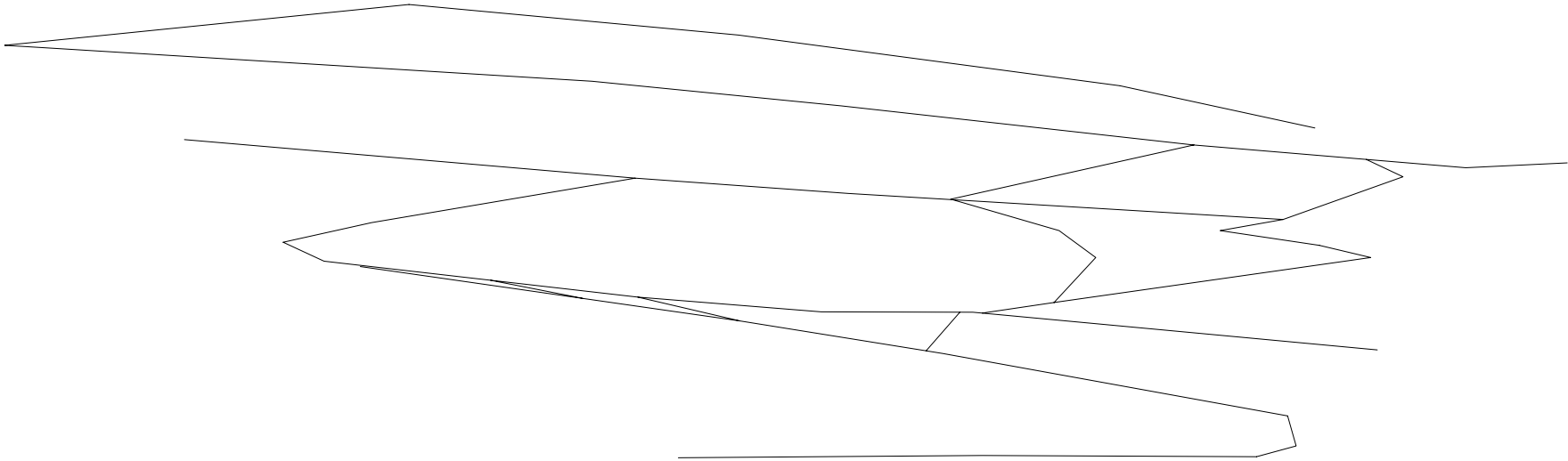


杖石

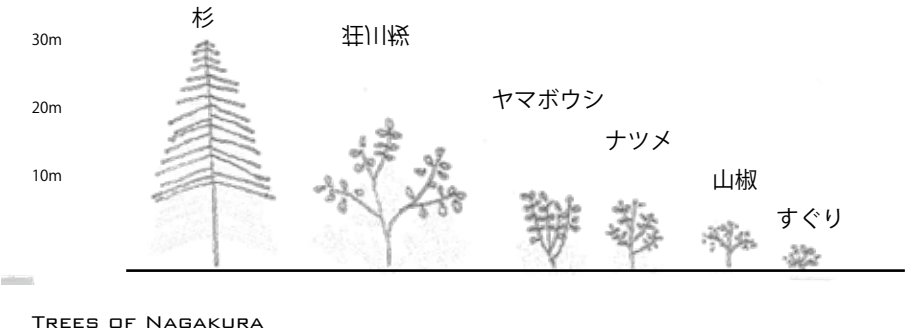




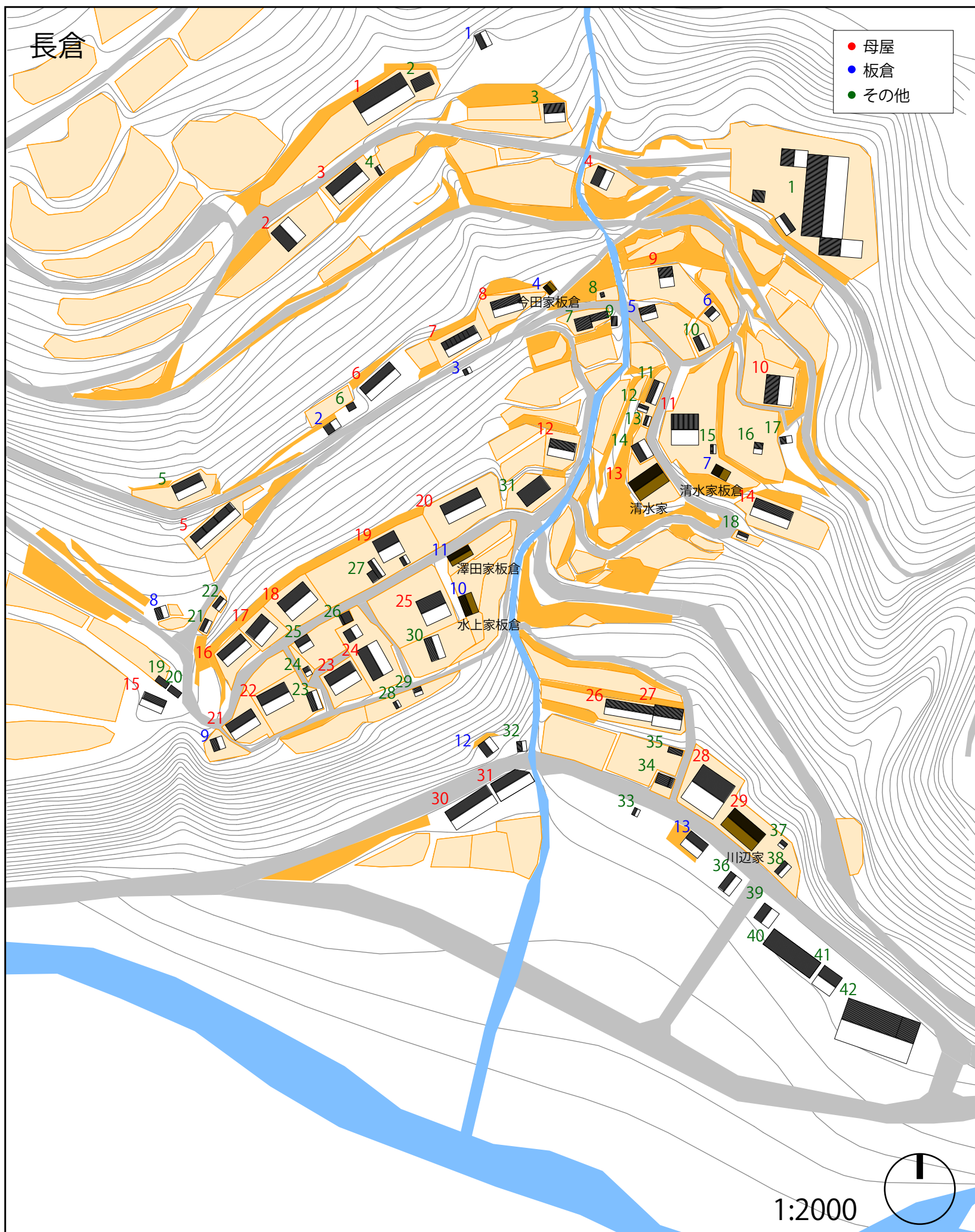
NAGAKURA SECTION 1:1000



NAGAKURA ROAD ELEVATION 1:1500



2.長倉建物マップ



母屋

母屋の多くは南側に入口を持ち、南側に回り込むようにアプローチをとるものもある。屋根は明治以降ほとんどクレ葺きで、おせ木を置き屋根石を並べていたが、現在ではほぼ全ての住居がトタン葺きである。農家建築でありながら、細部の意匠や建具には町屋の要素が見て取れる。

一階にはザシキ (家族団らんの場合)、ロジ (玄関を入った土間)、ニワ (屋内の作業場)、デイ・オクデイ (床の間や仏壇が置かれたハレの空間)、マヤ (ウチマヤ・ソトマヤ) やチョウダ (寝室) などがおかれ、囲炉裏はニワ・ザシキ・デイなど2, 3箇所で見られることもあった。

二階は天井を張らず、間仕切りもない一室空間で、養蚕のために使用されていた。養蚕が廃れたからは、天井は張らないままだが、間仕切りを新たに設けて寝室などに利用している家が多い。



板倉

長倉の板倉は、斜面の形状を生かして3階建て(アプローチは二階にとる)としたものが特徴的である。屋根は母屋同様、昔はクレ葺きであったが現在は殆どがトタン葺きである。構造は柱と柱の間に貫を通して多い。

一階は主に味噌や醤油を醸造・貯蔵する味噌蔵として、二階以上を家財道具や穀物の倉庫として利用しているもの多かった。

明治期以前の板倉も何棟が残っているが、明治17年(1942)の火災の後新たな板倉の築造に関しては、①母屋から離して築造すること、②母屋よりも斜面の下側(南側)に築造すること、の2点を原則とする申し合わせが定められた。



1

2

3



4

5

6



7

8

9



10

11

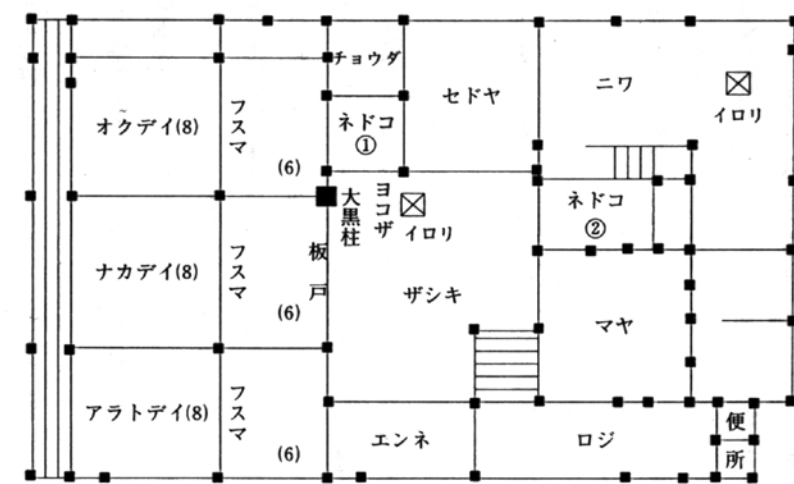
12

13

平面・立面の実測

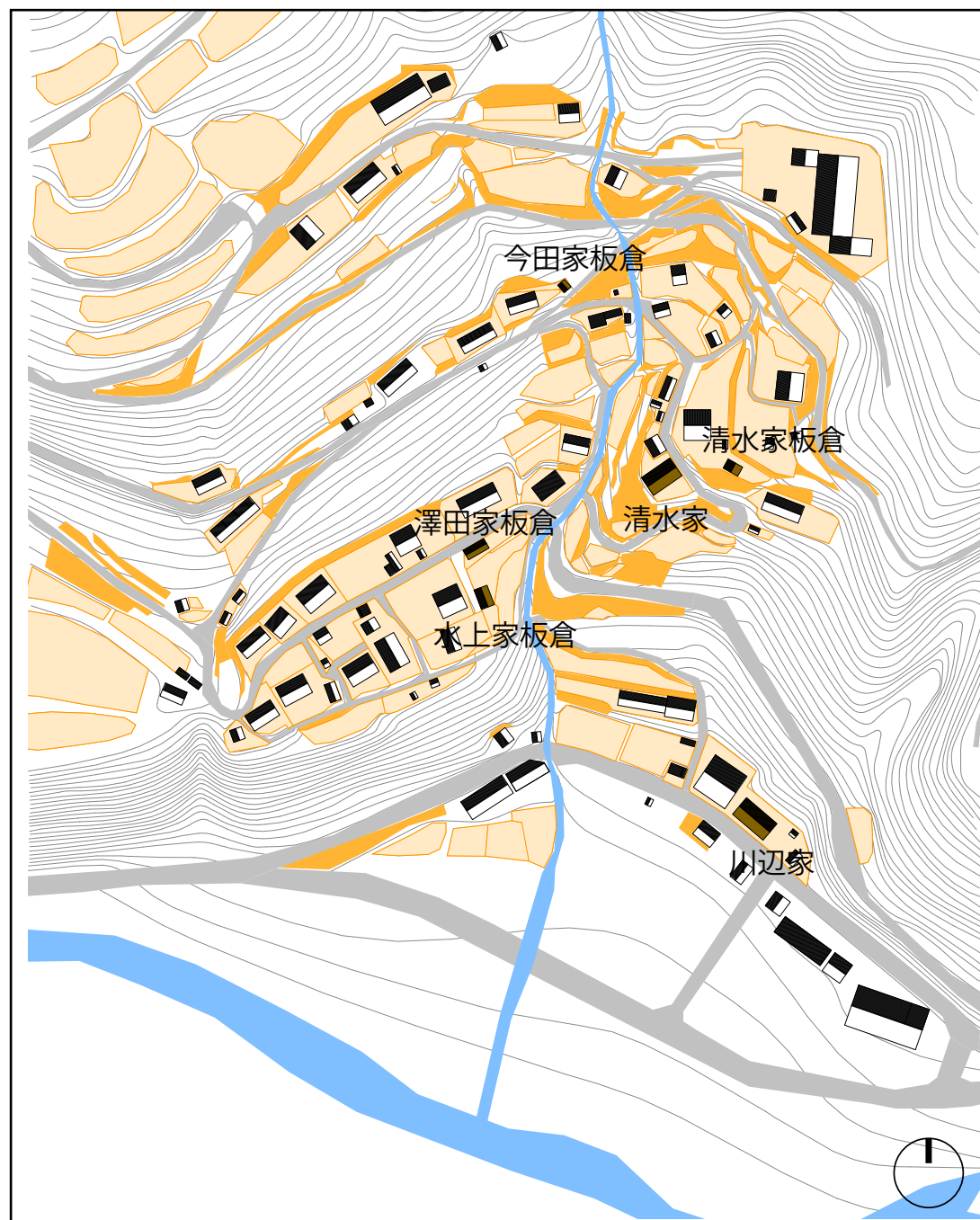


地域の方にヒアリングを行いながらの実測



間取り図 森下家(夢之俣)

上宝の農家の間取り(『上宝村史』より)



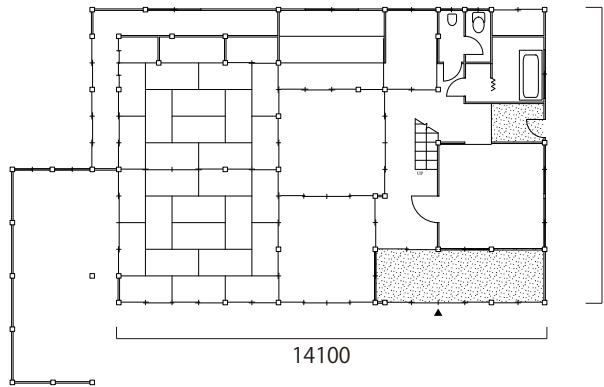
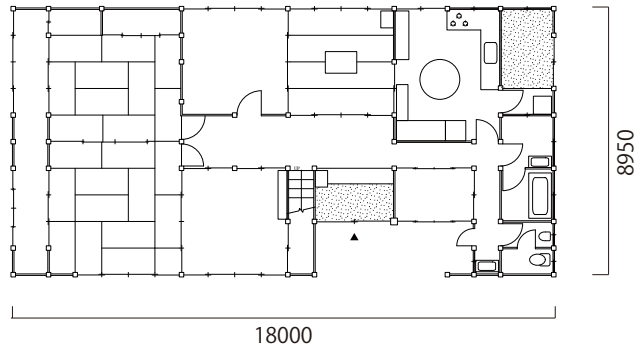
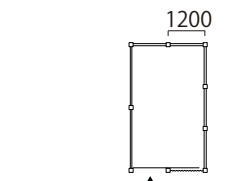
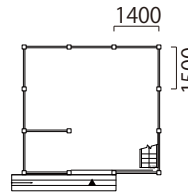
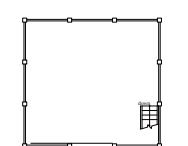
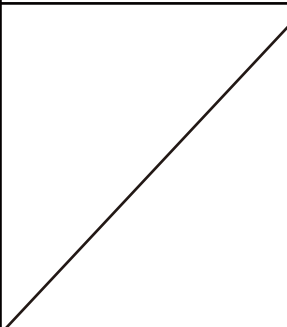
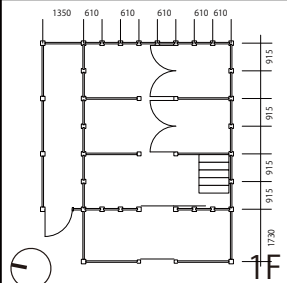
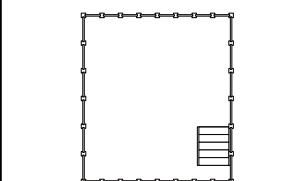
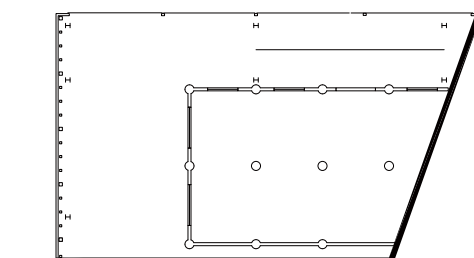
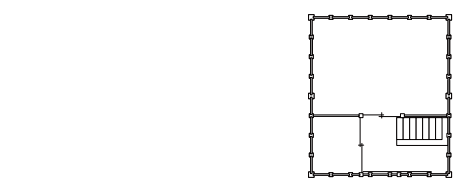
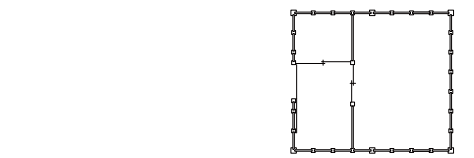
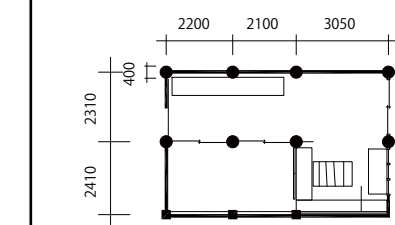
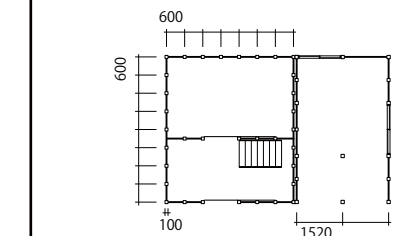
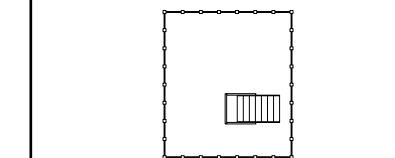
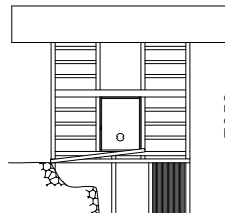
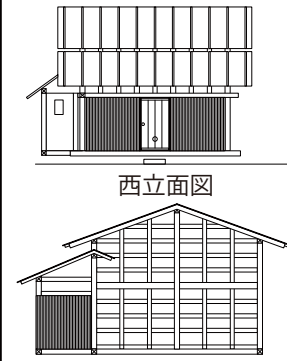
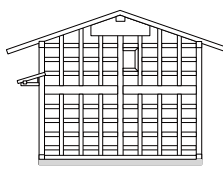
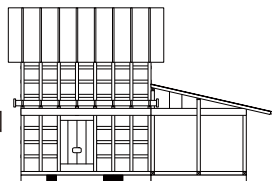
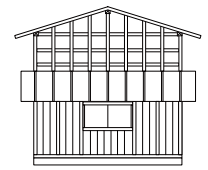
地域の方のご協力のもと、母屋二棟と板倉四棟の実測を行った。

母屋の平面図は、右の森下家のように玄関を入れてザシキ、右手にニワ、左手にデイ・オクデイ、奥にチョウダの構成をとっていた。マヤについては、家の内にマヤを置くウチマヤのものと、外に置くソトマヤのものが混在していた。

平面図からは町屋の意匠が見てとれる。

板倉については、柱間が約一間のものとそうでないものがあつたが、斜面を利用した三階建てのダイナミックな構造が見てとれる。

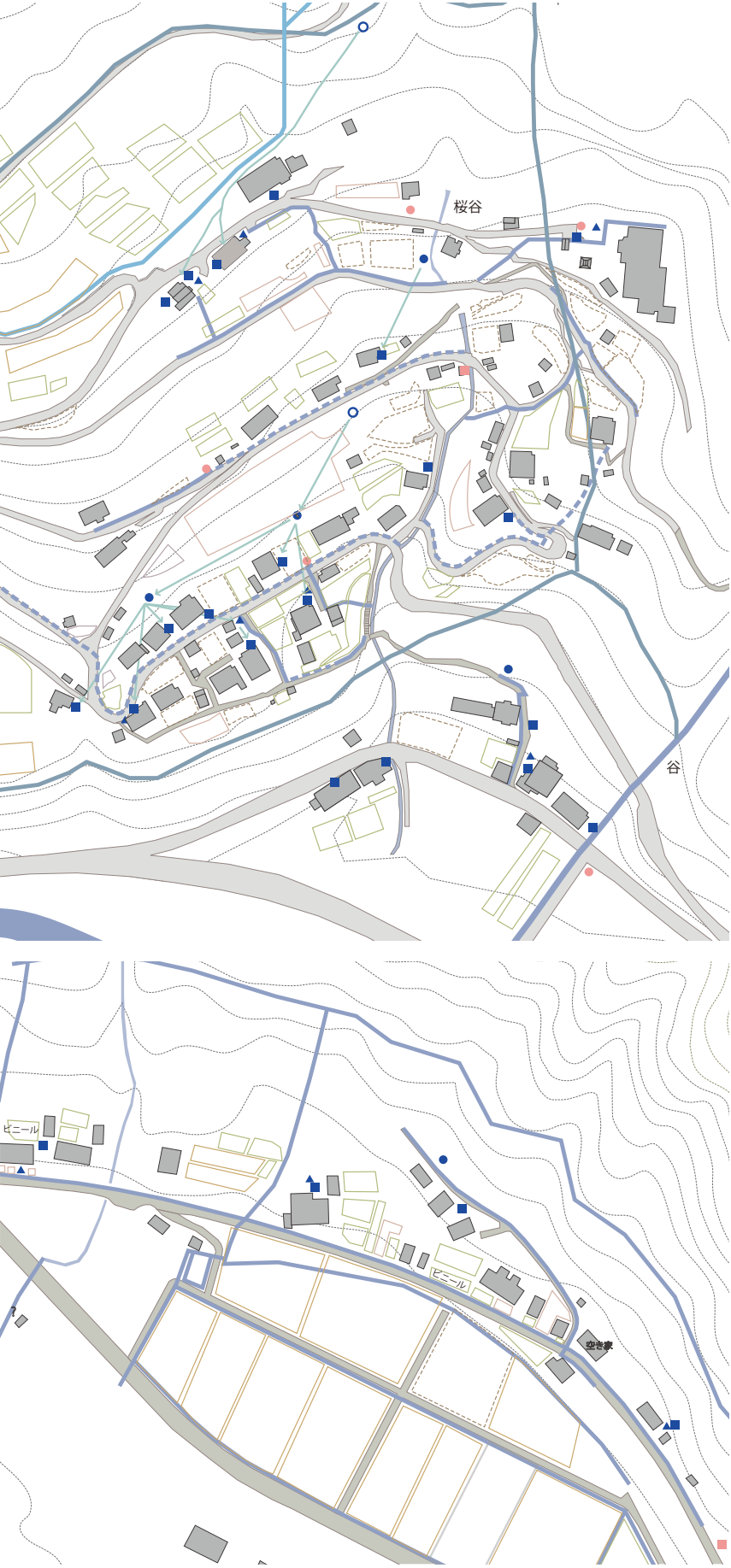
調査建物マップ(茶色)

名称	清水家	川辺家	今田家板倉	清水家板倉	澤田家板倉	水上家板倉
平面図	 1/250 1F	 かつての部屋の呼び名・つかわれ方 1F	 GF  1F  2F	 GF  1F  2F	 GF  1F  2F	 GF  1F  2F
立面図	 南立面図	 南立面図	 西立面図  南立面図	 西立面図	 西立面図  南立面図	
写真						
データ	建築年：不明（１００年以上前） 階数：２階 屋根材：トタン 西側の元々８畳程度の部屋であった場所は、改築され現在は農機具置き場となっている。現在は立面がそろっているが、かつては玄関が奥に引き込んであった。建物西側は崖になっているため、懸造りとなっている。ザシキの前面にミセと呼ばれる部屋があった。昔はマヤは家の中にあった。	建築年：明治１１年 階数：２階 屋根材：トタン 昭和２０年、３０年頃に二度改修。元々半屋外だった風呂やトイレのスペースを改修によって屋内空間とした。玄関は少し内側に引き込んである。ザシキの前面にミセと呼ばれる部屋があった。昔はマヤは家の中にあった。	建築年： 階数：３階 屋根材：トタン 今田さんの先々代が古材を使用し、自ら建てたもの。一階部分は土壁になっているが、現在は外側からトタンが張られている。	建築年：大正８年 階数：２階 屋根材：トタン 入口前面部分は昭和１０年の改築、入口左手の材木置き場は昭和４５年頃の改築である。内部の柱には溝があり、ついたてとして板を差し込むことができる。	建築年：明治２年 階数：３階 屋根材：トタン 昭和４５年に鉄骨の上に板倉を引き家して移動してきた。鍵穴が二つある特殊な錠を使用しているなど、板倉への防犯意識がうかがえる。	建築年：昭和４０年頃 階数：３階 屋根材：トタン 一階のコンクリートは水上さんの先代が作ったもので、板倉は大工によるもの。桂峯寺の鐘つき台を作った大工の最後の作品。大八車が外壁に装飾として付属している。

01. 水路 MAP



02. 水舟・池調査



水舟調査
長倉集落の水舟に多い形はコンクリートの水槽型、シンクを屋外に設置したもの、ツキ屋で使われていた石臼を庭に置いて水鉢として使っているものがある。以前は3段の水舟もあった。（1- 飲料水、2- 手洗いう水 3- ゆすぎ水）
野菜や飲み物を洗う、冷やすなどに使われている。

池調査
庭に池を持つ家もある。
生き物がいる池は2カ所みられた。

コンクリート水槽 シンク



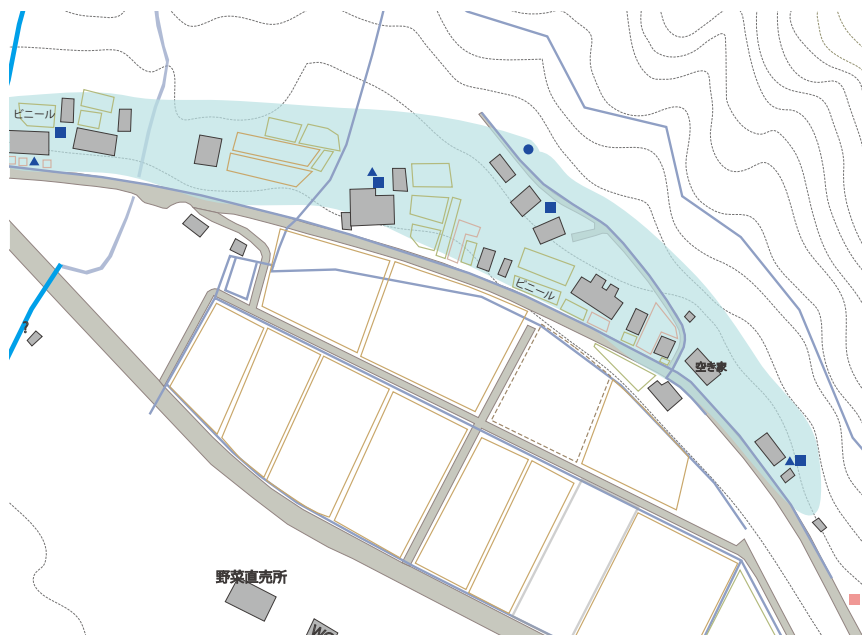
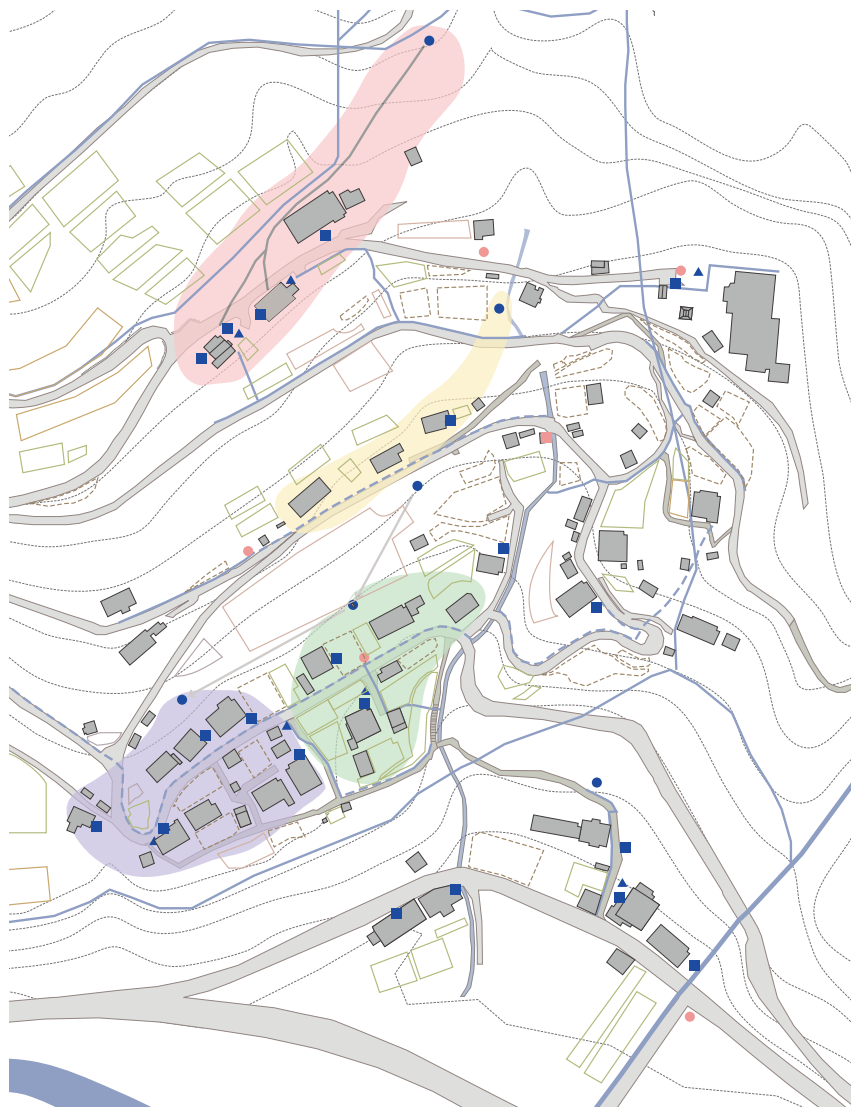
石臼
ツキ屋の臼を庭に



池
湧水、用水から取水



03. 取水方法



長倉では、小組ごとに水屋がつくられており、上中組・下中組は不動谷の水を小屋倉組・東組は湧水地の水を引いてきた。（上宝村史より）現在、生活用水は湧水や用水水道水が使われており、取水方法は、個人で湧水や用水からホースで引いてきているもの、共同の取水小屋からホースで引いてきているものが見られる。傾斜のある地形のため、水路よりもフレキシブルなホースが多用されている。



取水小屋



ホースで各戸に引いている

洞一湧水をホースで引水
上仲一個人で用水、湧水からホースで引水
下仲一取水小屋から引水
小屋倉一共同の取水小屋が3つあり、そこから各戸に配分されている。
東一湧水は下の方が出やすい。個人で湧水をホースで引水
細越一用水路、簡易水道のタンクから各戸へ配分されている。

*川の水（用水）より山の水（湧水）の方がおいしいと好まれるが、雨のときは、雨水を受けるのでにぎる。

04. 防災

地滑りの危険があった20年程前までは避難訓練をしていたが、今はしていない。町内会が自主防災組織になっていて各戸で役割分担もされている。災害時の避難場所は公民館であとから役場が駆けつける。



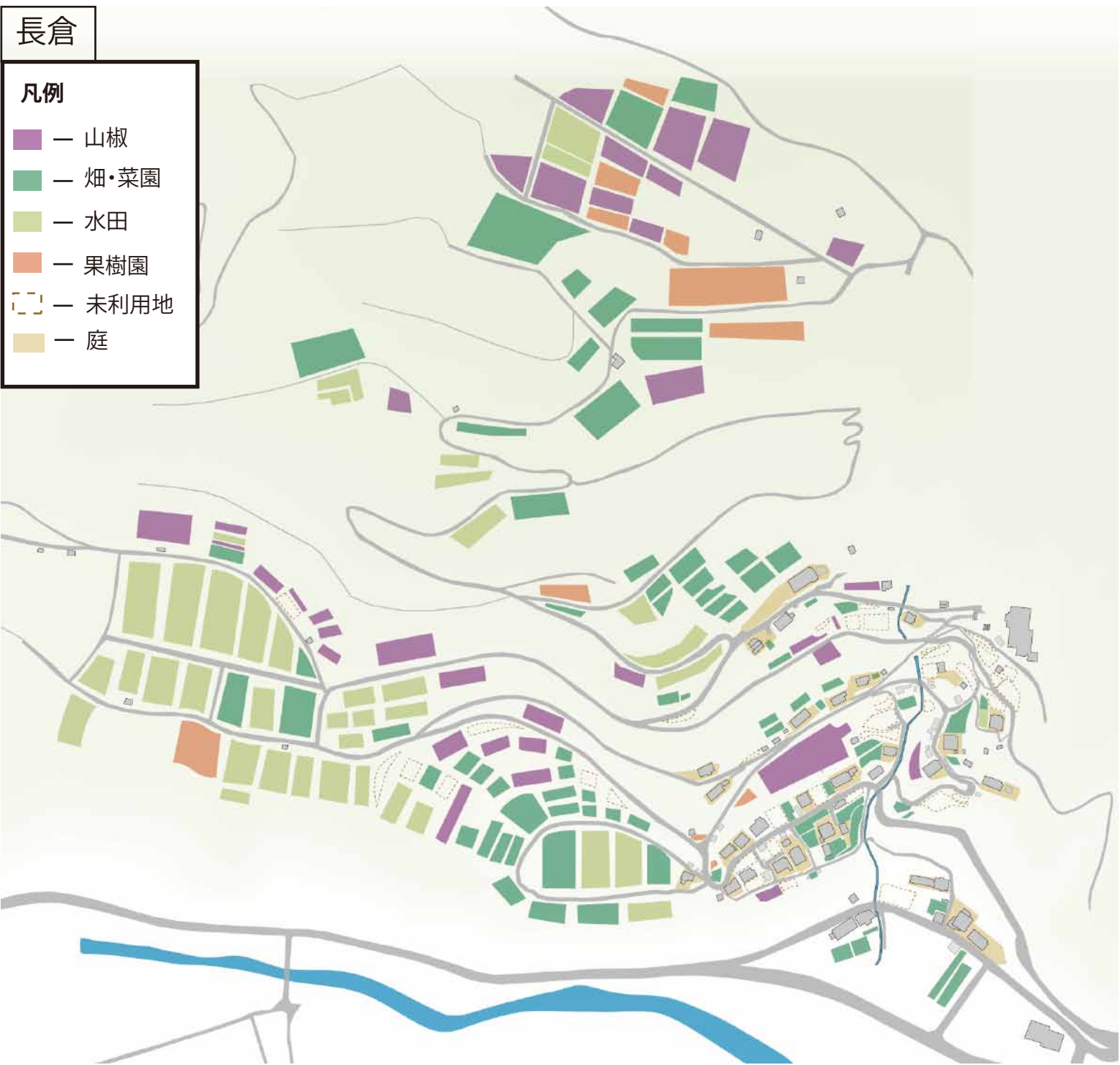
ホースが各戸に届くかは確認済み



各組に設置されている

4.長倉の土地・農地

険しい斜面地である長倉集落であるが、山の背の平地や斜面を利用しての農が営まれてきている。北側・西側の高地では出荷向けの比較的大規模な農業が、南東側の集落内部では家庭向けの菜園も至る所で見ることができる。



長倉の農の経緯

長倉は水資源に乏しく、かつては水田を維持するだけの水路が確保できなかったため、ほぼ全域にわたって畑地として利用されてきた。S30年代に斜面上側まで用水が引かれてきたことで水田も広がることになった。特に、圃場整備された南西部には集団的な水田が広がる。かつては斜面を畑地として利用することで、集落内でもまとまった畑作がみられたが、機械が利用できない維持の難しさから、現在では維持しやすい山椒や果樹が植えられていたり、杉の植樹が進められた所が多く見られる。

長倉の農の豊かな表情

①棚田



用水と圃場整備によって広まった水田が、斜面を縫うように広まっている。高低差の大きな棚田はダイナミックな景観を生む。

②経営農業



山の上を中心に、規模の大きな出荷用の農地が広がる。出荷用の作物は米・りんご・トマトから奥飛騨山椒、ナンバン、各種ブドウなど特徴的なものまで、多彩なものになっている。

③家庭菜園



集落内では庭先を中心に、家庭向けの菜園が賑わいを見せる。

④山椒

山椒は虫がつかず手入れが楽で、不整形な土地でも栽培ができることから、畑作・稲作が難しくなった斜面地を中心に、集落全体にわたっていたところで山椒の栽培が行われている。高い評価を得ている奥飛騨山椒は、長倉の風景の一部であり、特産品といえるものである。



細越



長倉と細越

優良な土地に恵まれなかった長倉の農家の中には古くから細越に土地を求め、所有しているものがある。今ではその土地を細越の農家で維持管理運営するなど、農の双方向的な関係が築かれている。

無人販売所

細越と長倉の街道沿いには無人販売所が設けられており、広く利用されている。この販売所の存在は販売成績がすぐ得られることや農家間での競争を生むこと、消費者との直接的な関係につながることから、大きな刺激となっている。

課題

獣害

サル・イノシシ・クマにより深刻な作物の被害がでている。集落をめぐる電柵の設置が進められているが、依然サル・クマへの対策は進んでいない。

後継者対策

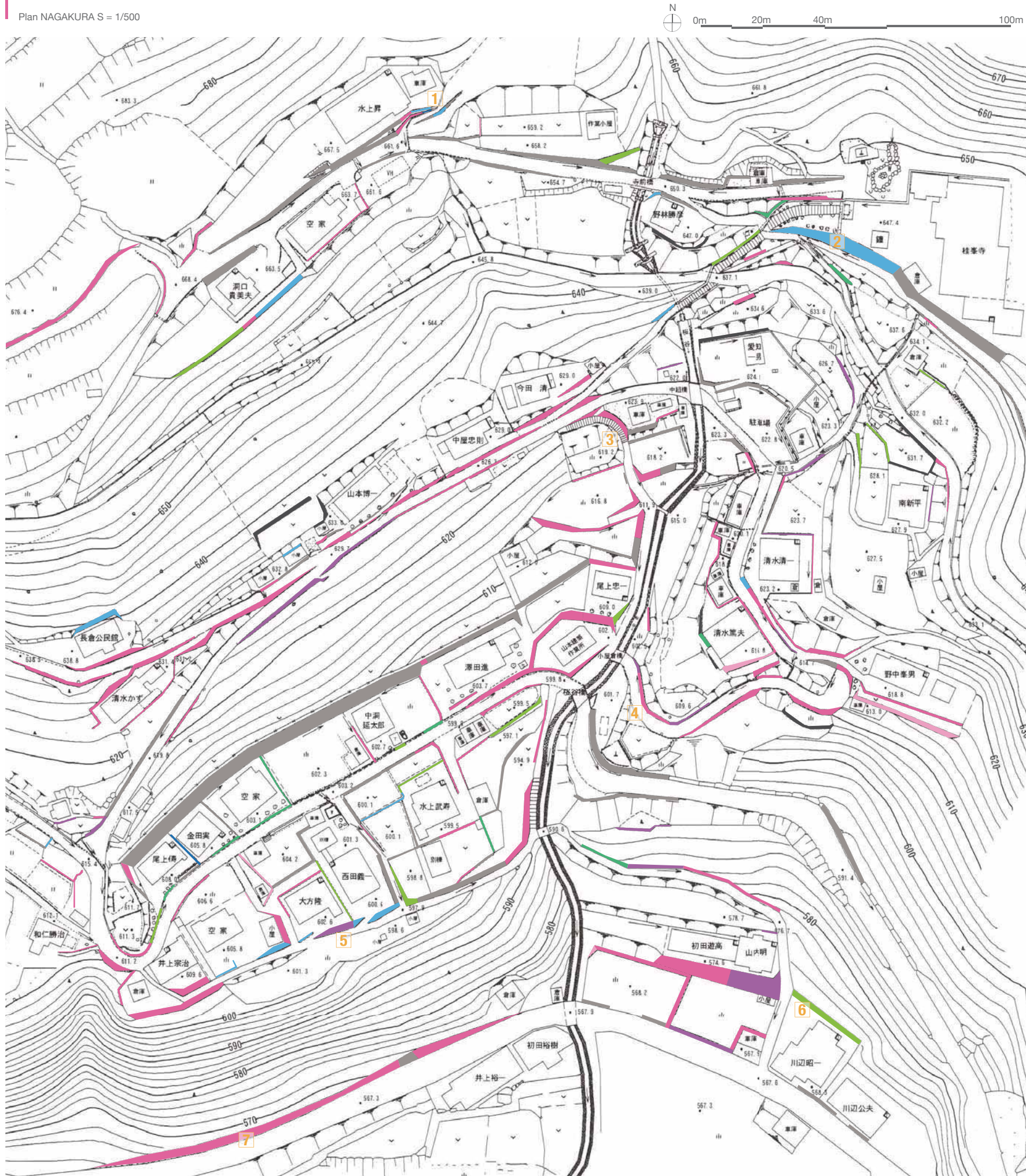
高齢化が進むなかで後継者が定まっている農家は8世帯にとどまり、後継者不足が懸念されている。

遊休地の増加

集落内の不整形な土地を中心に、遊休化した荒地が増加してきている。

5.長倉集落：石垣調査

Plan NAGAKURA S = 1/500

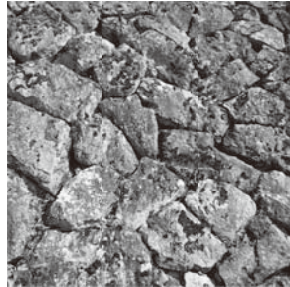


※なお測量図に石垣と表記されているが、目視確認できなかったものは、図中黒色で表記した。

石垣カタログ

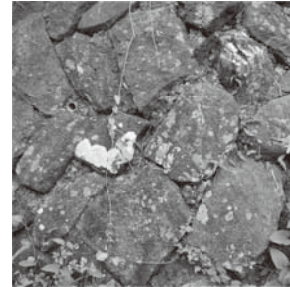
斜面地で生活するために早くから石垣の技術は発展しており、桂峯寺の石垣に山石による石垣技術を見ることができる。石垣は山の角石で構成されたものが最も古く、時代が下るにつれて玉石へと変化していった。角石は初田地区の上の三山から切り出したもので、割れやすく（加工しやすく）、風化しにくい特徴があり、石垣に適した材といえる。玉石は高原川から運ばれてきた石で、昭和37年頃から使われるようになった。こうした背景を踏まえて、石垣の種類を以下の7タイプに分類した。

01 角石 × 角石



最も古い石垣のタイプで、桂峯寺の南側斜面に築かれている。ひとつひとつの石が大きく、近隣の山で切り出された石を使用している。

02 角石 × 角石 × コンクリート



角石と角石の隙間をコンクリートで固めているタイプであり、数はあまり多くない。

03 角石 × 丸石



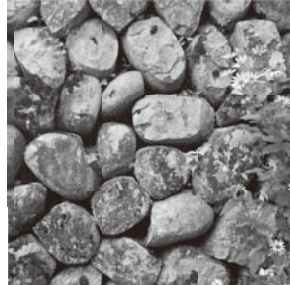
丸石は水流によって角がとれた高原の石を使用している。角石と丸石が混合しており、積み方に微妙なズレが生じるため、小石を隙間に詰めている。

04 角石 × 丸石 × コンクリート



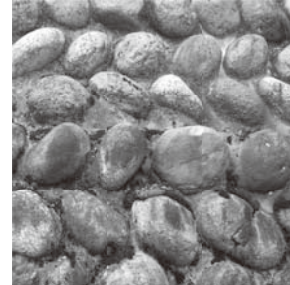
数は多くない。隙間によってはまだ小石が残っており、コンクリートは個人で流し込んだものと考えられる。

05 丸石 × 丸石



山の角石が無くなってしまったため、丸石のみで構成されているタイプ。集落に点在しており、このタイプが主流だった時代が存在したと考えられる。

06 丸石 × 丸石 × コンクリート



集落で最も多いタイプ。05にコンクリートを流し込んだもの（図中薄ピンクで表記）と、石の向きを互い違いに配し整然としたもの（上写真、図中濃いピンクで表記）がある。

07 コンクリート



上記の石垣にコンクリートを重ねて（上塗りして）おり、断崖絶壁の場所でも多く見られる。また水抜き用のパイプが数多く設置されている。

考察

桂峯寺の石垣は大きな石で隙間無くきっちり積み上げられており、桂峯寺の権威が空間に表出している要素のひとつである。最も多い石垣のタイプは06の丸石とコンクリートで構成されたタイプであり、高さ10m近くの石垣もある。かつて、集落には「初田カツゾウ」という石垣職人がいたが、石垣は各世帯で個々に築いたため、集落の石垣の質（形、大きさ、積み方）は家々で異なる。また、石谷のコンクリートへの改修は道路の拡幅工事に併せて、主として個人単位で行ってきた。このため、住宅の敷地境界で石垣の構成が異なる。

石垣コレクション

集落内に100m高低差がある長倉は、曲がりくねった複雑な道で空間が構成されている。道や宅地の造成には石垣の技術が用いられ、その構造も多種多様になっている。そのなかでも、特に美しい石垣や面白い石垣を以下にあげる。



九十九折の石垣。隙間に草花が植えられている。



形、大きさの整った山石が積み上げられている。石に苔が生い趣がある。



緩やかな曲線を描き、高さのある石垣が荘厳。



石垣に水抜き用のパイプが7本取り付けられている。



大きさの同じ丸石がコンクリート無しに、積み上げられている。



きれいに割られた石が積み上げられており、隙間から植物が生育。



隙間がコンクリートで固められているが、そこから草花が芽生えている。

6.長倉の祭礼空間 ～神仏の共生～

長倉集落は、集落内の寺社地（桂峰寺・神明神社）、北東に位置する山の山頂（高鳥屋山）、そして川沿いにそそり立つ奇岩（杖石）といった、壮大な自然環境と融合した、多彩な祭礼の場を持つ集落である。

長倉地区 1. 神仏の共生

集落の北西部、鬼門である「艮」の方角を守るように、桂峰寺 と神明神社が配されている。集落の信仰空間として、祭礼空間として、大きな石垣と深い森に覆われた神聖神聖な空間を形成している。

仁月山 桂峰寺



宗派：臨済宗妙心寺派
本尊：釈迦如来
由緒：山門及び鐘楼は高鳥屋山山頂の社殿も手がけた名工「中洞延太郎」の晩年の作とされる。

神明神社



祭神：天照皇大神、弥都波能売神、五十日足彦命、香取大神 白山比咩神、火産霊神
由緒：創建年代は不詳。往古この地に時々光輝き、あたかも神明のごとく見えるものがあったので村民は畏怖尊敬して神籬を立てて斎祀したのが起源といわれる。明治40年、初田の茂松社、細越の貴船社を合併した。円空作の狛犬一對を（上宝村指定文化財）所蔵する。



2. 高鳥屋山



高鳥屋山（たかんとややま）は標高 1,247m、長倉集落の東方に位置し、チカツエ谷と下佐谷の溪谷に挟まれ、本郷平からもその突出した特徴的な三角形の形が分かる。高鳥屋山は麓の長倉集落の住民にとって村の守り神であり、山頂には、高須宮の社が存在する。また、山頂から東方には笠ヶ岳の山容が望まれる。昔から八十八夜の5月2日頃、長倉の住民はこぞって登り続け、豊作から雨乞いまで幅広く祈ってきた。最近では、4月29日に隔年で参拝して神事を行う。

3. 杖石



杖石は長倉の細越地区に位置し、高原川にそそり立つ巨岩で、高さ約 70m 周囲約 100m。岩井戸の「蓑石」、吉野の「笠石」と共に「高原三奇岩」の一つに数えられる。弘法大師伝説を伝え、頂上には弁財天が祀られている。昭和 30 年頃まで、円空作の弁財天が祀ってあったが、現在は桂峯寺から譲り受けた石彫の弁財天が祀られている。また、以前貴船神社にあった狛犬（石彫）が奉られている。

6.長倉の祭礼行事

4月 春祭り

神明神社例祭



毎年4月の第三土曜日に行われ、神輿は神明神社から長倉公民館までおたびをする。辻々で獅子舞を行う。舞い方は5種類あり、獅子は2頭である。かつては、集落の麓の学校までおたびを行っていたが、担い手の高齢化に伴い、中腹部の公民館までとなった。獅子舞の舞い方等の伝承を絶やさぬように、獅子舞や祭りを保存していこうという動きがある。

4月29日(交互開催)

高鳥屋山(高須宮)祭り



百姓の神様として五穀豊穡を祈願。高鳥屋山頂で神事を行い、下山後荒神様(茂松神社)で直会が行われていた。

弁天様祭り



弁財天を奉る祭礼である。お祭りの朝、細越地区の人は毎年「奉納・氏名」えお書いた旗を山頂に掲げ祈願する。

9月 桂峰寺の例祭

百観音例大祭



200年余続いている行事であり、毎年9月3日、桂峯寺本堂において行われる。1回33体の仏像を厨子に入れたまま回し、それを3回繰り返すことで、西国、秩父、坂東を巡り、100体に参るという意味になる。現在は66~67体を用いて、2座に別れて行っている。かつては、年に2回春と秋に行われていたが、現在は1回のみである。400~500人の参拝客が訪れ、全員に食事を振る舞う。

11月 秋祭り



年2回開催される祭り。

長倉五講

長倉集落は、集落内の寺社地(桂峰寺・神明神社)、北東に位置する山の山頂(高鳥屋山)、そして川沿いにそそり立つ奇岩(杖石)といった、壮大な自然環境と融合した、多彩な祭礼の場を持つ集落である。

1. 観音講

観音様の命日である18日に信者が集まりお経を上げ、数々の願いを込め祈願供養する。

2. 秋葉講

1日と15日に石燈籠に燈明が灯され無火災・家内安全を祈願する。上宝地域で広く信仰されている。

3. 三夜講

三寶荒神を祀り神事が行われた。祈禱は先達・神代で構成。明治初期から昭和30年代まで続いた。

4. 御嶽講

五穀豊穡・無病息災を祈願。正月の幕の内に「御日待ち」という行事があり、公民館で行なう。

5. 庚申講

庚申の節句を元に庚申地蔵を祭り始めたのが由来。家内安全・悪病退散を払う。昭和30年後半に解散。

農村集落では神社信仰による祭礼が地域コミュニティの形成基盤の中心となるが、長倉集落においては神社だけでなく、寺院も信仰の対象として、かつてより存在しており、両者の祭礼が共生していることが特徴的である。

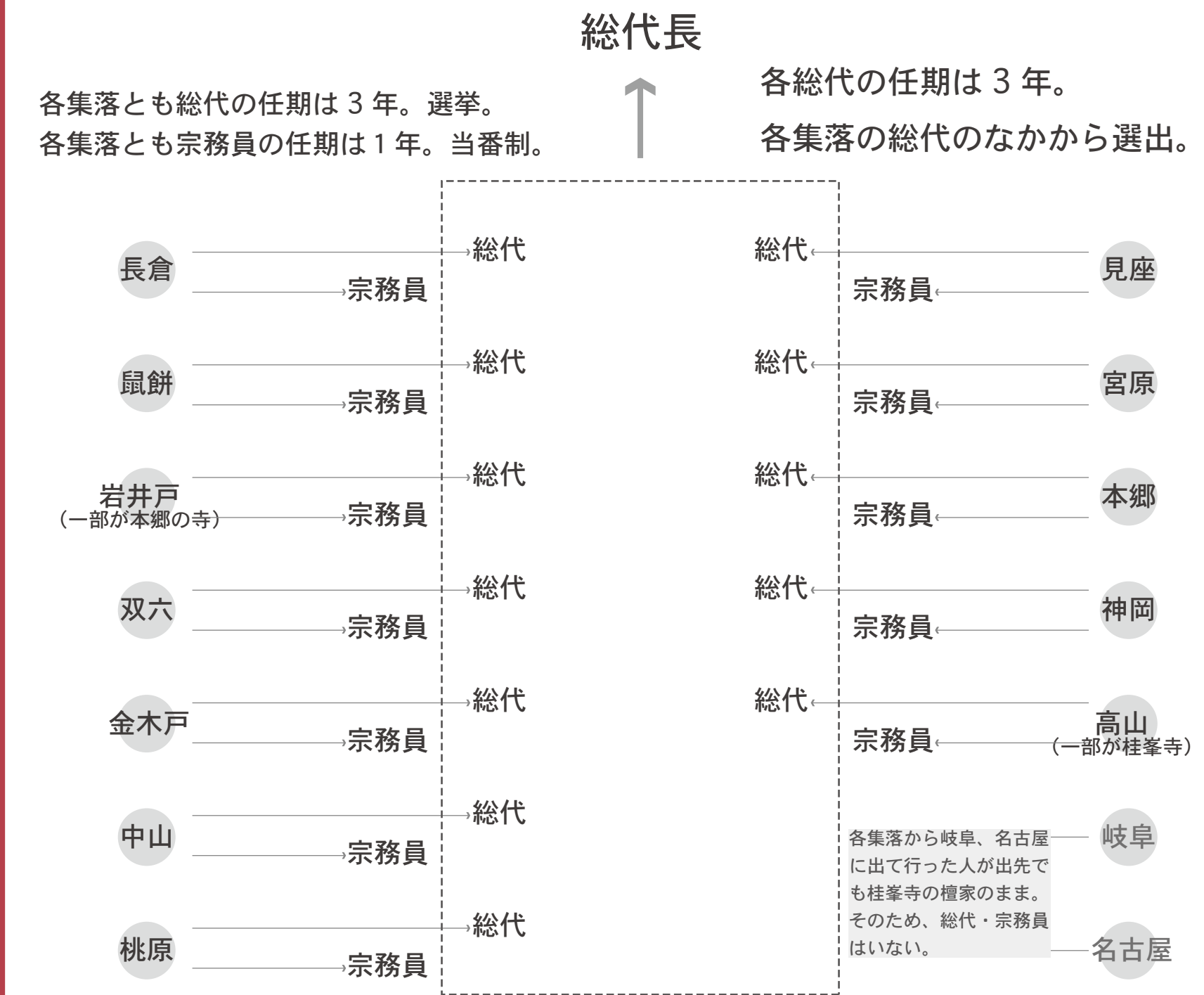
百観音例大祭

1. 百観音例大祭の流れ



桂峰寺の例祭として9月に行われる「百観音例大祭」は本堂をはじめ、池・地蔵など桂峰寺の境内内(祭礼空間)を存分に使用している祭礼である。この日は多くの檀家があつまり、「ハレ」の空間となる。

2. 桂峯寺と檀家ネットワーク



200年ほど続く伝統的行事「百観音例大祭」であるが、年一回のその日には、檀家が多く集まる。各集落とも檀家の中で総代、宗務員が選挙や持ち回りで決められ、総代の中から総代長が選出される。桂峯寺と長倉は「檀家ネットワーク」によって集落外の地域ともつながっている。また、檀家以上に信者も多く大祭の際にはそういった人々が共有する神聖な「場」となる。

7.長倉の景観

長倉地区の景観

長倉集落は高山市景観計画において、農山村景観として景観重点区域に定められている美しい景観の残る集落である。長倉地区においては段状の地形に民家が点在している点が、集落の最大の特徴と言えるだろう。その民家も「段」を元に、初田、洞、仲、小屋倉、東と5つのある程度のまとまり（組）を成し、集落を形成している。集落内で100m以上の高低差をもち、国道付近から望むその集落の姿は正に「天空の城」と呼ぶにふさわしい。

1. 集落を「眺める」



写真①：国道から見た長倉地区全景

長倉地区を国道471号線から眺めると「東（ひがし）組」から「洞（ほら）組」の民家までがひと目で眺めることができ、壮観である。また地域の人々や車が集落内の坂を登る様子や、畑仕事をする様子など、地域の生活の風景まで一望する事ができる。長倉地区の最大の特徴はその高低差にあるが、その高低差が生み出すこの見る人を圧倒する景観も、長倉地区における貴重な地域資源の一つである。しかし、近年では後述する杉など高木の問題により集落の様子が、かつての状態に比べ（右側写真参照）見えにくくなっている。

2. 集落から「望む」



写真②：小屋倉の屋根並み



写真③：長倉公民館から高原川を望む



写真④：集落北西部にある棚田の風景

集落の中からの眺めも絶景である。その風景は登った高さや方向などの視点により様々なに変化し、高原川や焼岳などの周辺の自然に加え、また棚田の風景や畑の風景、小屋倉の屋根並みや軒先の

菜園など様々な大きさの発見により人々を楽しませる。また、斜面を活用した山椒畑など、急峻な地形と相まった人々の知恵の数々も長倉地区の特徴的な景観を構成する要素と言えるだろう。

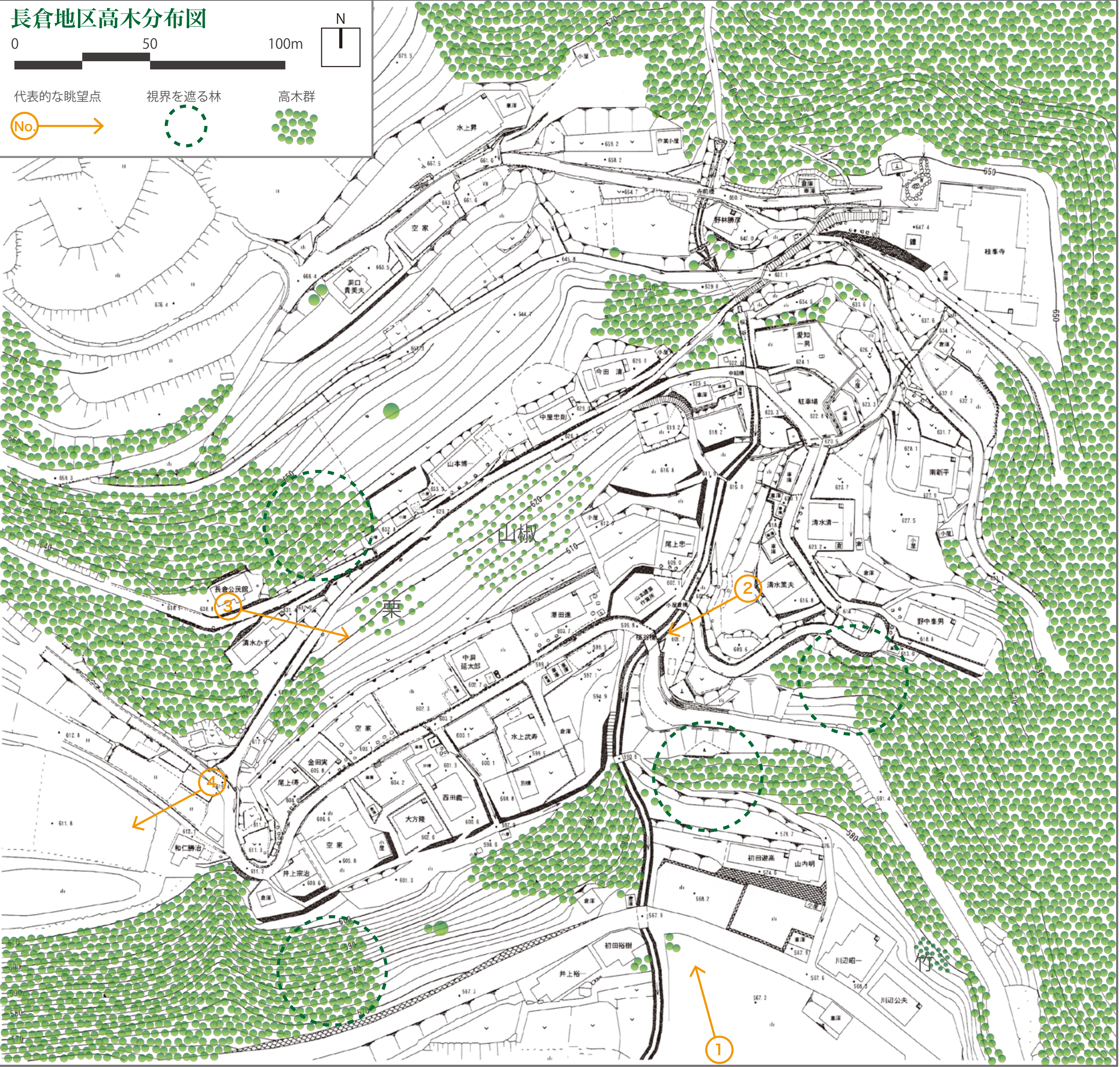
細越地区の景観

細越集落も美しい農山村景観が残る。現在の国道と旧街道（高原道）に高低差があり、目の前に広がる農地を一望することができ、開放的な眺望が細越の魅力である。また眼前には高原三奇石の一つである「杖石」が聳え立ち、細越の景観のアクセントとなっている。



写真：国道から見た細越地区全景

長倉集落は、急峻な斜面の限られた平地が織り成す段状の地形に民家が並ぶ景観が特徴的な長倉地区と、線状に民家が点在し、目の前に広大な農地と杖石を望む細越地区という、多彩かつ魅力的な農山村景観が残る地域である。



高木の問題

長倉地区内には、かつての国策などの影響や、空き地の発生による植樹により、杉などの高木が所々群生し、視界を部分的に遮っているため、民家が点在する特徴的な景観を昔ほど存分に見ることが出来ない。また、杉などは根が浅く、長倉地区が長らく取り組んでいる土砂災害防止への効力は低いとされ、防災的な面からも保全の必要性はそれほど高くないといえる。

かつて「山は財産」と言われ、山師（やまし）と呼ばれる山の不動産屋が存在していた。しかし、現在では林業を営む人も減少し、高木が生い茂る山が残されることとなった。山林の伐採には少なからず費用もかかるため、こういった高木を含めた「山林」を今後どのように管理してゆくべきか、今後解決すべき課題といえる。



写真：向かいの山から望む長倉地区全景

(写真提供：清水清一さん)